

【ポスター発表】

高齢者を支える地域社会の現状と課題

—高齢化率 50%を超える奥会津地方 3 町村の取り組みから—

○ 郡山女子大学 氏名 熊田伸子 (会員番号 2649)

キーワード：過疎地域、高齢化率、地域社会

1. 研究目的

奥会津地方は、全国的にみても高齢化率が非常に高い地域である。特別豪雪地帯に指定されており、冬場の雪かきや雪おろしは、高齢者の生活に重くのしかかっている。

東日本大震災では大きな被害に及ばなかったが、同年 7 月の「新潟・福島豪雨」では、道路の寸断、只見川に架かる複数の橋の崩落や流出、ライフラインの断絶により、住民は孤立した。こうした非常事態へ対応するためには、地域住民の日頃のネットワークが重要である。そこで、3 町村が独自に行っている取り組みや合同で取り組んでいる取り組みを通し、今後ますます進行するであろう高齢化に対応するための課題を検証する。

2. 研究の視点および方法

金山町、昭和村、三島町の高齢化率の推移の状況は、福島県や全国平均と比較して非常に高い。また、高齢者のみの世帯が、金山町・昭和村では約半数、三島町では約 4 割を占めている。さらに、高齢者のみ世帯のうち、約半数が一人暮らし世帯である。一方、要支援・要介護認定者数は、65 歳以上人口の約 2 割にとどまり、元気な高齢者の実態が浮かび上がった。こうした高齢者を支える地域での取り組みに着目した。

研究方法は、金山町、昭和村、三島町の役場（地域包括支援センター、社会福祉協議会を兼ねている）職員より聞き取り調査を行った。

調査時期は、平成 23 年 8 月である。聞き取りの内容は、①高齢化の状況、②高齢化の進む背景、高齢化の進行により引き起こされる問題、③高齢者支援の具体的取組、高齢者が暮らしやすい地域社会、④今後の課題、である。

3. 倫理的配慮

アンケート調査の実施及び調査内容については、3 町村の理解と協力を得て行った。また、回答および提供していただいた資料については、研究の目的以外に使用しないことを説明した。

4. 研究結果

3 町村の高齢化率は、平成 24 年 5 月現在、金山町 55.7%、昭和村 53.9%、三島町 48.4% である。高齢化率が高いだけでなく、平成 2 年当時と比較して、平成 22 年には、金山町で 21.4%、昭和村 26.8%、三島町で 20.1% 増加しており、全国および福島県の 11% と比較して、上昇のスピードも非常に速い。

高齢化の要因としては、自然的・経済的不利性により引き起こされた基幹産業の崩壊、鉱山の閉山による就業場所の減少、こうした状況に伴う若年人口の流出、である。

高齢化の進行により引き起こされた問題は、①地域扶助機能の崩壊。都市部とは異なり、これらの地域は縁故関係で結びついている。冠婚葬祭扶助や共同作業など、共助機能で成り立つ社会であり、扶助機能が成立しなくなると、地域社会の維持にも支障をきたす深刻な状況となる。②家族介護力の低下。需要に対する供給が足りず、徐々に機能不全に陥りつつある。③福祉制度の持続可能性。今後も上昇が見込まれる高齢化と人口減少から、新たな制度の整備は困難である。そのため、小集落を地域全体として捉えた支援を行い、支援者の配置を行うことが必要。④人員不足による地域包括支援センターの機能不全。3町村ともに、地域包括支援センターの職員が、社協や居宅介護事業所の仕事も兼務しているのが現状で、本来の役割を果たせていない。介護予防支援が重要視される状況で、高齢者のニーズや状態の変化に応じて切れ目なく提供される地域包括ケアを進めていくためには、拠点となる地域包括支援センターの体制強化を図ることが必要である。

次に、3町村の特徴的な取り組みを紹介する。

- (1) 昭和村 介護保険対象外の方への支援として、個別のニーズを地域全体のニーズとして取り上げ、新たな福祉サービスの整備に積極的に取り組んでいる。
- (2) 三島町 高齢者の知識や技術を生かした就労の場の提供、地域の特産品を用いた町の活性化、「災害時一人も見逃さない運動」の災害時要支援者カード・福祉マップ。
- (3) 金山町 地域に根ざした福祉教育の推進として、小学校から高等学校までの継続性をもった福祉活動の実施、冬期間の除雪対策の充実。

高齢者が暮らしやすく、豊かな地域社会には何が必要なのだろうか。①多様な人々とのかかわり。様々な人々との関係性を持った中でこそ豊かな生活を送ることができる。そのため市町村の高齢者支援では、高齢者に多くの人間関係を提供することのできる機能を持ち合わせていることが必要である。②物財・財源の確保。物的資源には社会福祉施設や在宅福祉サービスがあるが、より広く考えると高齢者が生活する環境それ自体も含まれる。高齢者向け住宅や街のユニバーサルデザイン化等により、居住環境そのものを暮らしやすくする必要がある。③住民一人ひとりの意識。地域への愛着感を持つことのできるような地域社会の形成が必要である。④地域行事。行事への参加を通じ、地域社会への一体感を感じることができるという意味で重要な要素である。

5. 考察

奥会津地方は過疎化が進んでいる地域として、限界集落とも呼ばれている。しかし、地域住民の助け合いの心、介護保険事業対象外の高齢者への支援、高齢者の知識や技術を生かした取り組みなどにより、住み慣れた地域で暮らし続けることを可能としている。高齢者の孤立が社会問題となっている現在、地域社会の在り方を示唆している。